

海外と日本の架け橋を作る

文化理解ゼミ国際交流班

1. はじめに

私たち国際交流ゼミの内容は発展途上国に支援をすること・海外と交流することの2つである。

2. 現状

(1) 発展途上国について

今、世界中で流行している新型コロナウイルス感染症は、紛争や自然災害、気候変動の影響を受けて以前から危機に直面していた発展途上国にも広がっている。標茶高校生に発展途上国に関するアンケートをとった結果、発展途上国にはさらなる支援が必要であると考えている生徒が多いことがわかった。また、標茶町民に「発展途上国について知っているか」というアンケートをとった結果、知っている人はとても少なかった。

(2) 海外との交流について

私たちは交流という視点から課題を2つ設定した。

1つ目に、現在新型コロナウイルスにより、海外から日本に来ること、情報を得ることが難しい状況

2つ目に、北海道に来る留学生が少ないという情報から、現在の状況でまたさらに少なくなる

3. 目的・目標

(1) 発展途上国

上記の現状を解決するため、私たちは募金・寄付を通して発展途上国のことを知ってもらいながら、より良い支援を追及していくことを目的とした。

また、目的を達成するために、以下の2点の目標を設定した。

①募金・寄付活動を重ねるごとに協力者の人数も増やせるような活動をする

②1人でも多くの人に興味・関心を持ってもらう

(2) 交流

上記の現状から、「海外と自分たちを繋げて、できることを作りだすこと」「1人でも多くの人に興味・関心を持ってもらうこと」を活動の目的とした。

また、「SNSを活用し北海道や標茶町の魅力を発信し、最終的に海外の方々に日本に興味を持ってもらう」「直接人と人が会って交流することができない今の時期だからこそ、SNSを通じて日本との交流の場を作る」という2つの目標を設定した。

4. 研究内容

(1) 発展途上国

「募金・寄付集め」(図1・2)

フクハラ様・いせや様・Aコープ様・標茶高校の4か所で活動した。第1回目は、活動内容が書かれたチラシ配り、なぜ協力してくれたのかというアンケートも同時にとりながら活動した。このアンケートは私たちを通し、「発展途上国について興味・関心を持った人が増えてほしい」という思いから始めた。結果、募金では167人、寄付では5人の方が協力してくれた(表1)。



図1 募金・物資集めの準備



図2 活動中の様子

表1 寄付・募金・アンケートに協力してくれた人数

	寄付	募金	アンケート
1回目	5人	167人	1人
2回目	13人	130人	3人

アンケートでは、発展途上国について知っている人は1人だった。第2回目は、前回の人が集まらないという反省から、活動場所にポスター・漫画風チラシを置く、学校通信に活動内容を載せる、中学校にて、プリントを配布、牛乳班協力のもとクッキーを配布、最後に全校生徒に事前告知を行ってから募金・寄付活動を実施した。結果、募金は全部で9万814円、寄付では611点を集めることができた。

第1回目と比べ、寄付の協力者とアンケートの発展途上国について知っている人は増えたが、募金の協力者は減少した。次からは、募金の協力者が増加するよう、より多くの場所で活動を行う、イベントに参加する、自分たちから教えに行くなどの活動ができれば良いと思った。

その後、集まったお金は、ユニセフ（国連児童基金）に郵送、物資はワールドギフト（国際社会支援推進機構）に郵送した。

(2) 交流

新型コロナウイルスにより、海外との交流ができないことからSNSを活用した活動をした。

まず、SNSのInstagramとTwitterを活用し、私たちの活動と標茶町について紹介した。次に、標茶町のお店や食品について取材し発信したが、この2つだけではあまり広がらず、もっと色々な方法で発信すべきだと考え、海外でも幅広く使われているYouTubeの活用も始めた。YouTubeではまず、地域の人たちにも同意してもらえるようなものを考え、自分たちなりに内容がわかりやすいものになるよう心掛けながら、動画作成を始めた。動画は、標茶町で人気のお店や食べ物について、実際にお店に行き取材し、それをもとに英語で紹介した。動画を投稿すると日本の視聴者だけでなく、海外の視聴者が全体の61%と、海外の方々にも視聴してもらうことができた。このことから、YouTubeを活用したことにより日本だけでなく海外まで発信することができるとわかった。

中学生体験入学（図3）では、中学生に交流の楽しさを知ってもらうため、英語を使い「だるまさんの1日」、「絵当てゲーム」の活動に取り組んでもらった。絵当てゲームは私たちの英語力向上のため、

ALT のビアンカ先生と交流し (図 4)、その際に教えていただいた遊びだ。ゲームを通し中学生から「楽しかった」などの感想をもらうことができた。このことから、英語で交流するという楽しさを伝えることができたと思う。



図 3 中学生体験入学



図 4 ビアンカ先生との交流

5. まとめ

(1) 発展途上国

①成果

遠くに住んでいる方からの寄付もいただき、私たちの活動が広がっていたことが実感できた。他のゼミと協力し、多くの方に喜んでもらうことができた。物資の協力者が増えた。コロナウイルス感染症が収集し、より多くの場で活動することができるようになれば、私たちの活動や発展途上国の現状についてより発信することができ、広がっていくと感じた。

②課題

1 回目に比べて 2 回目の募金の協力者が減少してしまった。1 回目と 2 回目の募金活動の間隔が短かったこと、1 回目と 2 回目の協力者が重なっており、2 回目は募金をしてくれなかったことが考えられる原因として挙げられる。発展途上国についてあまり広めることができなかった。イベント・コンテストに参加できなかった。活動を広めるために、私たちから中学校などに教えに行くなどの活動を行い、「なぜ標茶町で募金・寄付集めをするのか」「どのような利点が生まれるのか」という観点に重きを置き、標茶ならではの支援を見つけ、魅力を発信し地域性や独創性に繋げていきたい。また、「発展途上国について知っているか」という質問を具体的なものに変え、内容をはっきりさせると良いと考えた。

(2) 交流

今年度は新型コロナウイルスの影響が大きく、「外国クルーズ船ボランティア」や「ユースキャンプ」などの様々なボランティア活動に参加できなかった。そのため交流グループの海外の方と直接交流するという目的が果たせなかった。しかし、その分標茶町に多くの視点を当てることができ、町内にある様々なお店や商品を YouTube にて紹介することができた。この動画は、「国際交流ゼミ」と検索すると視聴することができる。気になった方は見てもらえると嬉しく思う。YouTube にて紹介させて頂いた各店舗の方々からも「良かった」「わかりやすかった」などの評価を得ることができた。また、中学生体験入学では 40 分という短時間ではあったが楽しみながら、英語に親しんでもらうことができ、私たちの活動も広めることができた。

6. おわりに

私たちの活動に協力して頂いた店舗の皆さま、先生方、そして生徒の皆さまありがとうございました。心より感謝いたします。今後は、より地域に貢献し、海外の方々ともコミュニケーションをとり、地域に発展途上国のことを広めてほしいです。